

## 代表質問

## 長期的な視点を持ち、まちづくりの基礎を築こう



公明党議員団  
大野 哲也 議員

## 中小企業支援の充実を

**問** 本市の中小企業支援の基本的な考えを聞きたい。

**答** 中小企業の振興は、地域経済の活性化や雇用の創出など、地域経済を支える根幹と考えるが、市内の中小企業では売り上げの減少をはじめ、資金調達や人手不足などの課題を抱えていると認識している。

引き続き、それらの課題に対する各支援策を充実させて中小企業の振興・発展に向け、積極的な支援を図っていききたい。

## 保健所の今後のあり方

**問** 県に保健所の設置主体を変更し、市民の健康危機管理体制の強化を図るとは、具体的にどのようなことか。

**答** 本市では、人口減少に伴う都市機能の縮小や財政状況の悪化等もあり、保健所機能を維持していくための専門人材や資機材の確保に苦慮している。

それが、市民の健康危機管

理や災害時対応等へのリスクにつながりかねない厳しい業務運営を余儀なくされているので、設置主体が県へ移管されることにより、

県の広域ネットワークに組み込まれることで、大牟田市民の健康危機管理体制の強化が今以上に図られるものと考えている。

## 市庁舎整備の考え方

**問** 庁舎の整備は、長い期間がかかる事業なので、長期にわたる視点が重要と考えるが、市長の見解を聞きたい。

**答** 庁舎整備の検討で長期的な視点は不可欠なものであると考える。長い期間に合わせてまちの姿も変わり市役所のあり方も変化するというので、今後の取り組みについても、将来を見据えた変化に対応できるような、庁舎整備の検討を進めていきたい。

**再発言** これから50年、100年先を考えると、AIの普及や人口の減少等、大きく社会が変化し、予想できない出来事が起きるかもしれない。

しかし、市が存在する限り、その中心に市庁舎があることは間違いないので、人が集まる場所の一つとして、将来の子供や孫に誇れるものとなるように夢や希望のある話も交

えて議論してほしい。

新大牟田駅南側  
地区の土地利用

**問** 新大牟田駅南側地区を整備することでどのような効果が期待されるのか。

**答** 新大牟田駅周辺は、本市の重要な拠点であり、交通アクセスにもすぐれているので、都市機能の向上や広域交流拠点にふさわしい土地活用を図っていく必要がある。

にぎわい交流用地については、飲食店や店舗、宿泊施設など、商業サービス機能が充実することで、新大牟田駅の交通結節点としての魅力が向上し、交流人口の増加や消費拡大などの効果を見込んでいる。また、農家レストランや直売所などが立地することで、地域のにぎわい創出にもつながっていくものと考えている。

一方、産業用地については、新大牟田駅に隣接する産業団地の利便性を生かした企業立地を進め、新たな雇用の場の創出を図っていききたい。

さらに、各種企業の進出により、地域企業との取引拡大、税収の向上、移住・定住の促進など、地域経済の活性化にも寄与すると期待している。

